

北見工業大学学報

第 245 号 (2011 年 5 月号)

目 次

入 学 式	平成 23 年度入学式举行	2
告 辞	入学式告辞	3
入 試	平成 24 年度編入学学生募集要項の公表	6
	平成 24 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表	7
研 究 助 成	平成 23 年度科学研究費補助金交付内定	9
	平成 23 年度共同研究の受入状況	12
	平成 23 年度受託研究の受入状況	13
	平成 23 年度奨学寄附金の受入状況	13
人 事	人事異動	14
諸 報	平成 23 年度構内美化作業の開始	15
日 誌	4 月・5 月	16

= 入学式 =

平成 23 年度入学式を挙行

(総務課)

平成 23 年度入学式が、4 月 6 日 (水) 午前 10 時から北見芸術文化ホールで行われました。

鮎田学長から、学部 441 人、学部編入学 5 人、大学院博士前期課程 132 人及び大学院博士後期課程 10 人の入学の許可が宣言

された後、学長告辞、北見市長、大学後援会「KIT げんき会」会長、同窓会会長、学生後援会会長からのご祝辞、入学生代表宣誓及び役職員紹介が行われ、式は無事終了しました。

なお、入学者数は下表のとおりです。

学部

系名	入学者数(人)
機械・社会環境系	167
情報電気エレクトロニクス系	149
バイオ環境・マテリアル系	125
合計	441

学部編入学

学科名	入学者数(人)
機械工学科	1
社会環境工学科	2
マテリアル工学科	2
合計	5

大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
機械システム工学専攻	33
電気電子工学専攻	21
情報システム工学専攻	13
化学システム工学専攻	32
機能材料工学専攻	24
土木開発工学専攻	9
合計	132



入学生代表宣誓

大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
生産基盤工学専攻	2
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	7
医療工学専攻	1
合計	10

= 告辞 =

平成 23 年度入学式告辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。
ます。

北見工業大学を代表致しまして、私たちの大学の一員となった皆さんの入学を心から歓迎します。

また、これまで皆さんを育て、温かく見守って来られたご両親をはじめご家族の皆様にもお祝いを申し上げます。

本日は、多くの父母の方にご出席いただき、北見市長の小谷様、大学後援会長の永田様、同窓会長の富田様、学生後援会長の近藤様にご臨席いただき、理事・副学長をはじめとする本学関係者列席のもと、入学式を挙行できますことをうれしく思います。

北見工業大学は、昨年度、創立 50 周年という記念すべき年を迎えました。今年度からは皆さんとともに次の半世紀に向けて歩み始めることとなります。

日本の最も北にある国立大学でありながら、47 都道府県すべてから学生が集まり、学生の半数は北海道外の出身です。卒業生は 1 万 5 千人を超える規模になり、全国に展開し、幅広い分野で活躍しています。

北見市の周辺には 4 つの国立公園が日帰り圏内にあります。東に世界自然遺産に登録され有名になった「知床国立公園」、西に「大雪山国立公園」、南に「阿寒国立公園」と「釧路湿原国立公園」です。

皆さんはこのような豊かな自然環境のなかで、これから希望にあふれた大学生生活を送ることとなります。

本日は大学院へ進学する皆さんの入学式でもあります。



大学院で取り組むことになる修士論文、博士論文の最も重要なことはそのオリジナリティーです。他人の研究成果を鵜呑みにするのではなく、常にその本質を見極め、自分なりの成果を出すことを心がけてください。

さて、先月 11 日、東日本の太平洋沿岸を襲った大地震は大津波も引き起こし、大勢の犠牲者を出しています。亡くなった方と行方不明の方を合わせると 2 万 8 千人を超える報道されています。ここに犠牲になられた方のご冥福をお祈り致しますとともに、被災されている方々にお見舞いを申しあげ、一刻も早い復旧を心から願っております。

被災地域出身の本学学生は、幸いにも全員の安全が確認でき、加えて家族の方にも被害がなかったとのことで、一安心したところです。

入学生の皆さんも全員が無事であることを確認していますが、ご家族や住宅などの状況については、まだ十分に情報が入っておりません。本学は被災した皆さんへの援

助を積極的に行っていきますので、被災状況等を申し出てください。

今回の地震では原子力発電所で事故が起こり、今なお危機的な状況が続いています。地震国に住む私たちにとって、原発とどう向き合っていくのかが、これからの重い課題となりますが、国民の多くは原発の安全神話が崩れたことに衝撃を受けています。

ここで皆さんが大学を出て技術者になったとき心得ておかなければならないことについて述べます。それは技術者としての倫理です。皆さんも来週からの授業で「工学倫理」を学びます。

「工学倫理」や「技術者倫理」の授業でよく取り上げられている事例は、かつて米国のスペースシャトル、チャレンジャーが発射直後に爆発し、7人の宇宙飛行士全員が死亡した事故での2人の技術者の行動です。

一人の技術者は、発射前に部品の不具合を指摘し打ち上げ延期を上司の技術者に訴え、上司の技術者もそれに同意し経営者に進言したものの経営に悪影響を及ぼすことを危惧した経営者側から打ち上げを中止するほどの決定的な根拠がないことを指摘され、発射に同意した結果、事故が起きたのです。

この事故で打ち上げ延期を主張した技術者は、惨事を防ぐことはできなかったものの、彼なりの技術者としての責任を果たしたと認められ、一方最終的に打ち上げを容認した上司の技術者は、「技術者倫理」と「企業倫理」との間に立ち「企業倫理」をとってしまったことで非難されました。

今回の震災で事故を起こした原発は、40年前に建設されたものですが、当時の技術

では採用されていなかった安全対策に、その後措置を講じようとした際に議論された二つの事例について、報道を基に「倫理」の視点から紹介します。

一つ目の事例は、耐震性についてです。

原発の新しい耐震指針が制定されたのを受けてまとめられた専門委員会による報告に、平安時代に東北地方を襲ったマグニチュード8クラスの巨大地震の記録が反映されていないことに対して委員の一人が疑問を呈し、想定の変更を繰り返し求めたものの今後の検討課題として先送りされたとのことです。

二つ目の事例は、原子炉格納容器についてです。

格納容器を担当していた大手重電メーカーの技術者は、米国での原発事故発生後、フランスで製造されたのと同様の放射性物質が漏れにくい構造の格納容器を造るべきと主張したものの会社に採用されませんでした。コストの問題とされています。

このように「組織としての倫理」と「個人としての倫理」との間には矛盾が生じることがあります。この場合の「組織」は一般に「企業」であり、「個人」は高度な専門的知識を持った「技術者」です。

企業には安定した経営の下、利益をあげ、社会貢献をするとともに、社員やその家族の生活を守るといった目的があります。しかし、それには今述べたように矛盾が生じることがあります。

入学式にあたって皆さんに伝えたいことは、将来技術者として自分が所属する組織の目的とそれが抱える矛盾を正しく認識したうえで、不特定多数に責任を負う観点から熟慮し、組織に誤りがあると判断した場合には、勇気を持って自分の意見を主張しなければならない、ということです。それ

が技術者として倫理上最も重要な心構えです。

北見工業大学では、皆さんが将来技術者として自立できるよう基礎的な教育をしっかり行って社会に送りだします。

加えて大学院生には、北見工業大学なら

ではの特色ある研究を指導します。

皆さんもそれに応えるよう意欲を持って勉学に励んでください。

皆さんが北見工業大学の一員として心身ともに健やかな学生生活を過ごされることを心から祈って告辞と致します。

平成 23 年 4 月 6 日

国立大学法人北見工業大学長 鮎 田 耕 一



＝入試＝

平成 24 年度編入学学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 24 年度編入学学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。

選抜の種類	推薦入試・学力試験入試・社会人特別入試	
学科及び募集人員	工学部全学科 推薦入試 10 人 学力試験入試及び社会人特別入試 若干人	
出願資格	<p>推薦入試</p> <p>高等専門学校・理工系の短期大学を平成 24 年 3 月卒業見込みの者 (ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 24 年 9 月卒業見込みの者)</p> <p>学力試験入試</p> <p>(1) 大学を卒業した者又は平成 24 年 3 月卒業見込みの者</p> <p>(2) 高等専門学校・短期大学を卒業した者又は平成 24 年度 3 月卒業見込みの者 (ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 24 年 9 月卒業見込みの者)</p> <p>(3) 修業年限 4 年以上の他の大学に 2 年以上在学している者又は在学した者 ただし、一つの大学に 2 年以上(休学期間を除く。)在学し、62 単位以上修得した者又は平成 24 年 3 月までに修得見込みの者(平成 24 年 3 月までに 2 年間以上在学となる者を含む。)等</p> <p>社会人特別入試</p> <p>入学時において企業等に正規の職員として 2 年以上在職中で、在職のまま入学することができ、所属長からの推薦がある者で、次のいずれかに該当するもの</p> <p>(1) 理工系の高等専門学校を卒業した者</p> <p>(2) 理工系の短期大学を卒業した者</p> <p>(3) 大学・学部の理工系学科を卒業した者又は大学・学部の理工系学科に 2 年以上在学し、62 単位以上を修得し退学した者</p>	
出願期間	推薦入試・社会人特別入試	5 月 16 日(月)～5 月 23 日(月)
	学力試験入試	6 月 16 日(木)～6 月 20 日(月)
試験日	推薦入試・社会人特別入試	6 月 8 日(水)(面接)
	学力試験入試	7 月 13 日(水)
合格発表	推薦入試・社会人特別入試	6 月 15 日(水)
	学力試験入試	7 月 20 日(水)

平成 24 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 24 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。また、平成 23 年度大学院秋季入学の学生募集要項も同時に公表され、平成 24 年度入試の第一次募集と同一日程で実施されます。

なお、博士前期課程では、平成 24 年 4 月に改組を予定しています。入学者選抜は、既存の専攻で実施しますが、その合格者は、改組後の専攻に入学することとなります。

詳細は確定後、本学ホームページに掲載する予定です。(http://www.kitami-it.ac.jp)

	博士前期課程			博士後期課程																	
専攻	機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報システム工学専攻 化学システム工学専攻 機能材料工学専攻 土木開発工学専攻			生産基盤工学専攻 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 医療工学専攻																	
選抜の種類	一般入試 学部 3 年次学生対象入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試 高等専門学校専攻科生特別入試			一般入試 社会人入試 外国人留学生入試																	
募集人員	<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試 機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報システム工学専攻 化学システム工学専攻 機能材料工学専攻 土木開発工学専攻 	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>第 1 次</th> <th>第 2 次</th> </tr> <tr> <td>16 人</td> <td rowspan="6" style="writing-mode: vertical-rl;">各専攻とも若干人</td> </tr> <tr> <td>16 人</td> </tr> <tr> <td>16 人</td> </tr> <tr> <td>14 人</td> </tr> <tr> <td>10 人</td> </tr> <tr> <td>20 人</td> </tr> </table>	第 1 次	第 2 次	16 人	各専攻とも若干人	16 人	16 人	14 人	10 人	20 人	<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試 生産基盤工学専攻 寒冷地・環境・ エネルギー工学専攻 医療工学専攻 	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>第 1 次</th> <th>第 2 次</th> </tr> <tr> <td>3 人</td> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl;">各専攻とも若干人</td> </tr> <tr> <td>3 人</td> </tr> <tr> <td>2 人</td> </tr> </table>	第 1 次	第 2 次	3 人	各専攻とも若干人	3 人	2 人	<ul style="list-style-type: none"> ・学部 3 年次学生対象入試 各専攻とも若干人 ・社会人特別入試 各専攻とも若干人 ・外国人留学生特別入試 各専攻とも若干人 ・高等専門学校専攻科生特別入試 各専攻とも若干人 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人入試 各専攻とも若干人 ・外国人留学生入試 各専攻とも若干人
第 1 次	第 2 次																				
16 人	各専攻とも若干人																				
16 人																					
16 人																					
14 人																					
10 人																					
20 人																					
第 1 次	第 2 次																				
3 人	各専攻とも若干人																				
3 人																					
2 人																					
出願資格	大学を卒業した者又は平成 24 年 3 月までに卒業見込みの者 等			修士の学位を有する者又は平成 24 年 3 月までに卒業見込みの者 等																	
出願期間	第 1 次募集 平成 23 年 7 月 4 日(月)～7 月 11 日(月) (出願資格の事前審査受付 平成 23 年 5 月 30 日(月)～平成 23 年 6 月 3 日(金)) 第 2 次募集 平成 24 年 1 月 16 日(月)～1 月 20 日(金) (出願資格の事前審査受付 平成 23 年 12 月 1 日(木)～平成 23 年 12 月 7 日(水))																				

試験日	第1次募集 学力試験 平成23年8月22日(月) 面接試験 平成23年8月23日(火) 第2次募集 学力試験 平成24年2月6日(月) 面接試験 平成24年2月7日(火)	第1次募集 面接試験 平成23年8月24日(水) 第2次募集 面接試験 平成24年2月6日(月)
合格発表	第1次募集 平成23年9月7日(水) 第2次募集 平成24年2月15日(水)	



= 研究助成 =

平成23年度 科学研究費補助金交付内定

(研究協力課)

○基盤研究(A)一般

所属	職名	氏名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
未利用エネルギー 研究センター	教授	庄子 仁	サハリン南東沖テルベニヤリッジ周辺のメタン湧水とガスハイドレート生成環境の解明	10,920	○	

○基盤研究(A)海外

所属	職名	氏名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	バイカル湖表層メタンハイドレートの多相形成環境の解明	9,490		○

○基盤研究(B)一般

所属	職名	氏名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	洪水時における中規模河床波の変形に着目した流路形成機構に関する研究	4,550		○
社会環境工学科	教授	山下 聡	表層型ガスハイドレート地盤の安定性評価と地球環境変動	2,730		○
電気電子工学科	教授	田村 淳二	風力と水素を核とするエネルギークラスターの構築	5,850	○	
情報システム工学科	教授	三浦 則明	太陽multi-conjugate補償光学系の実用化	3,120		○
バイオ環境化学科	教授	鈴木 勉	鉄触媒炭化二段法によるウッドリファイナリーの構築とナノ炭素からの高機能材料の開発	3,120		○

○基盤研究(C)一般

所属	職名	氏名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
機械工学科	教授	鈴木 聡一郎	高齢者の健康寿命延伸のための身体能力向上効果に着目したマウスガードの試作研究	1,300		○
機械工学科	教授	柴野 純一	材料深部き裂の検出とき裂近傍ひずみマッピングを可能とする白色X線システムの開発	1,300		○
機械工学科	教授	羽二生 博之	GPS軌道誘導農地赤外線自動航空撮影システムの開発と農地の土壌および作柄改善	780		○
機械工学科	准教授	三戸 陽一	二相分散流システムにおける物質輸送機構のモデル化	1,040		○
社会環境工学科	教授	亀田 貴雄	南極氷床の表面質量収支と海水準への影響の解明 - 氷床の平坦性及び標高分布観測 -	1,170		○
社会環境工学科	准教授	堀 彰	X線回折逆格子マップ測定によるドームふじ氷床コアの水結晶の組織と構造の研究	780		○
社会環境工学科	教授	中山 恵介	北極圏の閉鎖性水域におけるメタン発生量推定に向けた貧酸素水塊の発生機構の解明	2,730	○	

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
電気電子工学科	准教授	川村 武	RF-IDシステムによる暴風雪悪視界下の車両ナビゲーションシステム	1,040		○
電気電子工学科	准教授	武山 真弓	広範な抵抗率可変機能を持つ新しい薄膜ナノ材料の開発と最先端集積回路への応用	910		○
電気電子工学科	教授	谷藤 忠敏	近赤外分光を用いたヒト脳診断理論の構築	650		○
電気電子工学科	教授	谷本 洋	複素信号処理のための低電圧動作アナログ信号処理回路	3,510		○
電気電子工学科	教授	野矢 厚	結晶粒径制御によるナノ結晶シリサイドの作製とナノコンタクト界面の形成に関する検討	2,860	○	
電気電子工学科	教授	柏 達也	UHF帯電波を用いたITS技術による自動車衝突防止システムの開発に関する研究	1,300	○	
情報システム工学科	准教授	榊井 文人	情報の遷移にダイナミックに追従するインターネット単語帳システムの開発	780		○
情報システム工学科	助教	曾根 宏靖	超高効率スーパーコンテニウム光のリアルタイム光波制御システムの構築	1,040		○
情報システム工学科	准教授	渡辺 文彦	複素トラス上の定積分の研究	780		○
バイオ環境化学科	准教授	服部 和幸	開環重合を利用した主鎖が二単位ずつ伸長する多糖の合成法	780		○
バイオ環境化学科	教授	吉田 孝	インフルエンザウイルス吸着機能を持つ硫酸化多糖ナノ繊維の開発	910		○
バイオ環境化学科	准教授	新井 博文	アレルギー反応に及ぼす生体内脂質過酸化の影響	1,170		○
バイオ環境化学科	教授	中谷 久之	カーボンニュートラル化を目指した時限型易生分解性ポリプロピレンの作製	1,950		○
バイオ環境化学科	准教授	兼清 泰正	ポロン酸を用いた糖検出チップの高速応答化とマルチカラーセンサーアレイへの展開	2,730	○	
バイオ環境化学科	准教授	佐藤 利次	食用担子菌による効率的なラッカーゼ等の有用タンパク質発現系の確立	2,080	○	
マテリアル工学科	教授	川村 みどり	極薄表界面層を有する高安定性銀薄膜の作製	390		○
マテリアル工学科	准教授	村田 美樹	ホウ素-水素結合活性化に基づく直截的ホウ素基導入反応の反応制御とその応用	2,340	○	
共通講座	准教授	柳 等	スウィーピング・パフォーマンス評価のためのカーリングブラシの開発と応用	1,950	○	
共通講座	准教授	水本 正晴	知識の文化的・言語的差異と民間意味論に関する実験哲学的研究	780	○	
未利用エネルギー 研究センター	准教授	八久保 晶弘	天然ガスハイドレートの結晶構造安定性に及ぼす多成分系ガスの影響	1,430		○

○挑戦的萌芽研究

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
社会環境工学科	教授	高橋 修平	車載型路面凍結検知システムの試作開発	780		○
電気電子工学科	教授	小原 伸哉	植物進化の環境適応形態を模擬したコンパクト受光システムの開発	1,950	○	

○若手研究(B)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
機械工学科	准教授	林田 和宏	レーザラマン分光法による火炎内における炭素質PMの成長挙動と構造形態の解析	780		○
社会環境工学科	助教	山崎 新太郎	カルデラ湖における深層崩壊、地すべりと湖水氾濫の総合的調査研究	2,600	○	
社会環境工学科	助教	井上 真澄	各種有機繊維と混和材を併用した寒冷地対応型コンクリートの開発	2,080	○	
社会環境工学科	助教	白川 龍生	導電性能・電磁波吸収性能を有するナノカーボン+合成樹脂コンポジット舗装材料の開発	2,860	○	
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	凍結・融解履歴を受ける斜面内土要素の異方性に関する研究	1,950	○	
電気電子工学科	准教授	田口 健治	高性能アンテナ開発を目的とした最適設計システムに関する研究	650		○
情報システム工学科	研究員	酒井 大輔	コロナ帯電を用いた超低光損失機能素子の開発	1,300		○
マテリアル工学科	助教	浪越 毅	キラルらせん高分子膜のトポケミカル光環化反応によるキラル超分子自立膜の創製	2,990	○	
共通講座	准教授	福士 航	なぜ長い18世紀の英国の劇場では女優だけが〈黒塗り〉をしなかったのか？	390		○
情報処理センター	准教授	升井 洋志	ドリップライン近傍における原子核のエキゾチック構造と非束縛状態の役割	650		○

○特別研究員奨励費

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
バイオ環境化学科	特別研究員	宮崎 健輔	時限分解性ポリプロピレンの開発	700		○

平成23年度共同研究の受入状況

平成23年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
地域共同研究センター	教授	有田 敏彦	着雪がいのフラッシュオーバー・メカニズムと耐電圧試験法の検討	財団法人電力中央研究所
情報システム工学科	准教授	原田 建治	コロナ耐電処理によるガラス表面改質	旭硝子株式会社/北海道大学
電気電子工学科	准教授	武山 真弓	Cu多層配線へ適用する極薄バリア膜の信頼性	芝浦工業大学
社会環境工学科	助教	中村 大	バイオマス資源を有効活用した道路法面緑化工法の検討	株式会社構研エンジニアリング
社会環境工学科	教授	川村 彰	STAMPERを用いた乗り心地悪化箇所の抽出	株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道
地域共同研究センター	教授	有田 敏彦	ポリマーがいの塩分付着特性に関する研究	東北電力株式会社 研究開発センター
自然エネルギー実験室	准教授	三木 康臣	太陽熱利用機器の高度利用について	道東ネイチャーテック倶楽部
情報システム工学科	准教授	榊井 文人	日本語文書分析手法の研究	株式会社カンテック
マテリアル工学科	助教	浪越 毅	高屈折率材料用含硫黄ポリビニルエーテルおよびポリビニルスルフィドの合成	丸善石油化学株式会社
バイオ環境化学科/ バイオマスエネルギー 研究推進センター	教授	鈴木 勉	木質バイオマスの鉄触媒炭化による高導電性炭素の製造	協同組合ラテスト
社会環境工学科	教授	川村 彰	一般路対応簡易IRI測定システム開発と新興国路面性状の把握	株式会社ワークム北海道
地域共同研究センター	教授	鞘師 守	ごみBOXの製品改良と製造効率向上に関する研究・開発	札幌シティ環境株式会社
社会環境工学科	教授	川村 彰	一般道用IRI測定手法の研究	株式会社共和電業
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	斜里町における環境試料(下水汚泥・放流水)中の微量環境有害成分の定量に関する長期的な研究	斜里町
マテリアル工学科	准教授	南 尚嗣	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋別市
マテリアル工学科	准教授	村田 美樹	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	美幌町
電気電子工学科	教授	谷本 洋	超低電圧動作アナログ回路の研究	ルネサスエレクトロニクス株式会社
社会環境工学科	教授	三上 修一	エポキシ樹脂の寒冷地性能確認試験に関する研究	日本国土開発株式会社
社会環境工学科	教授	中山 恵介	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	北見市
共通教育グループ	准教授	伊藤 純一	常呂川水系におけるゴルフ場開発の下流水産資源への影響に関する研究	北海道漁業環境保全対策本部
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	河床変動調査船の研究開発	株式会社白石ゴム製作所
電気電子工学科	教授	田村 淳二	新エネルギーシステム変動制御技術の検討/ 系統連携インバータ用系統モデル化検討	株式会社日立製作所日立研究所/ 株式会社日立産機システム
サテライト・ベンチャー・ ビジネス・ラボラトリー	特任教授	山岸 喬	常呂産ニンニクおよび常呂産ニンニク製品の有用性に関する研究	日本製薬工業株式会社
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	Liイオン二次電池用導電材料の開発	戸田工業株式会社
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	北見市企業局
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	北見市企業局
マテリアル工学科	准教授	南 尚嗣	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	北見市企業局
バイオ環境化学科	准教授	兼清 泰正	多糖類を利用した機能性素材の開発	花王株式会社
マテリアル工学科	准教授	大野 智也	ナノ粒子への誘電体被覆	東洋アルミニウム株式会社

平成23年度累計 29件

平成23年度受託研究の受入状況

平成23年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費 円
社会環境工学科	教授	中山 恵介	知床を対象とした気候変動による寒冷地域の生態系システムへの影響評価	三井物産株式会社	2,946,000
電気電子工学科	准教授	武山 真弓	低コスト薄膜太陽電池用SiおよびSiNx薄膜の革新的低温作製技術の開発	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	513,000

平成23年度累計 2件

平成23年度奨学寄附金受入状況

平成23年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 円
機械工学科	教授	富士 明良	医用工学研究のため	北見医工連携研究会	200,000
機械工学科	助教	高井 和紀	住宅の躯体掃気に関する研究のため	ジェイベック株式会社	250,000
機械工学科	助教	高井 和紀	住宅室内空気質の分析調査	特定非営利活動法人日本VOC測定協会	1,000,000
マテリアル工学科	准教授	大野 智也	「セラミックインテグレーションによる非鉛圧電体薄膜の歪み制御技術の確立」の研究のため	公益財団法人日本板硝子材料工学助成会	1,350,000
	学長	鮎田 耕一	東北地方太平洋沖地震で被災した北見工業大学の学生を支援するため	匿名	500,000
	学長	鮎田 耕一	東北地方太平洋沖地震で被災した北見工業大学の学生を支援するため	匿名	200,000
社会環境工学科	助教	井上 真澄	コンクリートの凍害とアルカリ骨材反応との複合劣化に関する資料収集	株式会社フジエンジニアリング	300,000
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	橋梁モニタリング技術の開発研究のため	株式会社フジエンジニアリング	800,000
	学長	鮎田 耕一	被災学生の支援	オホーツク・テクノプラザ	500,000
共通教育グループ	准教授	伊藤 純一	「ゴルフ場開発による常呂川水質調査・研究」助成のため	北海道漁業環境保全対策本部	800,000
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	工学研究のため	一般社団法人日本鉄鋼連盟	1,000,000
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	学術研究等助成	株式会社村田製作所	1,000,000
社会環境工学科	教授	大島 俊之	超低温下におけるゴム緩衝材の特性に関する研究	株式会社ブリヂストン	400,000

平成23年度累計 13件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
23.4.30	学生支援課事務職員	藤本 みちえ	辞職



平成 23 年度構内美化作業の開始

(施 設 課)

本学において毎年恒例となっている構内美化作業が5月9日(月)から始まりました。

この取り組みは10月下旬まで毎月2回(夏季休暇期間を除く) 昼休みを利用して学生・教職員が共同で構内及び周辺道路の清掃活動を実施するもので、大学の地域貢献という側面のみならず環境マインドを持った人材育成を目指した活動です。

風がやや強いもののすっきりと晴れた空の下、鮎田学長より美化作業開始の号令が発せられたのち、約150名の参加者たちは各々が担当する場所で清掃活動を行いました。

集められたゴミは担当職員指導のもと分別され、1 時間ほどで今年度最初の美化作業を完了しました。参加者からは「例年と比べて捨てられているゴミやタバコの吸い殻が非常に減った」との声があり、こうした取り組みの実効性が感じられました。

今後、本学では北見市が主催する「北見クリーン作戦」にも参加し、市民への環境美化に関する啓発活動の実施や学生・教職員ボランティアによる付近公園等のゴミ拾いを行う予定です。



構内美化作業の様子



学生・教職員が協力して作業を実施



参加者を激励する鮎田学長



集めたゴミの分別を行う多くの参加者

= 日誌 =

4 月

- 4 日 役員会
- 5 日 教授会、研究科委員会
- 6 日 入学式、新入生ガイダンス(全体)
- 7 日 新入生ガイダンス(系列)
- 8 日 前期授業開始、入試企画センター運営
会議
- 11 日 役員会
- 14 日 工農教育推進委員会
- 18 日 役員会
- 19 日 教務委員会、交通安全講習会
- 20 日 教育研究評議会、発明審査委員会
- 21 日 学生委員会
- 22 日 広報委員会
- 25 日 「北見工業大学地域共同センター推進
協議会」平成23年度総会
- 27 日 不正防止対策室会議

5 月

- 2 日 休講
- 6 日 臨時休講
- 9 日 役員会
- 10 日 就職ガイダンス
- 12 日 地域連携推進委員会
- 13 日 国際交流委員会、入学者選抜委員会
- 16 日 役員会
- 17 日 インターンシップ説明会
- 19 日 SVBL兼任教員会議
- 20 日 学生委員会
- 23 日 役員会、発明審査委員会、放射線障害
防止のための教育訓練(~24日)
- 25 日 教育研究評議会
- 28 日 東北海道三大学体育大会(~29日)
- 30 日 役員会

